

INFECTIOUS DISEASES WEEKLY REPORT

TOKYO **iDWR**

東京都感染症情報センター

東京都感染症週報

2012年第25週
(6月18日～6月24日)

* 2012年6月27日現在の情報により作成しています。
最新のデータは「Web版感染症発生動向」をご覧ください。
<http://survey.tokyo-eiken.go.jp/>

* 今週は感染症豆知識「ヘルパンギーナ」も記載しています。

平成24(2012)年6月28日発行

編集・発行

東京都健康安全研究センター
健康危機管理情報課

電話：03-3363-3213(直通)
FAX：03-5332-7365
e-mail：idsc@tokyo-eiken.go.jp

全数把握対象疾患 報告数 2012年25週

分類	対象疾患	東京都(保健所受理週)				年累計	全国(診断週)	
		22週	23週	24週	25週		25週	年累計
一類	エボラ出血熱							
	クリミア・コンゴ出血熱							
	痘そう							
	南米出血熱							
	ペスト							
	マールブルグ病							
	ラッサ熱							
二類	急性灰白髄炎							
	結核	97	109	80	88	2,154	397	13,625
	ジフテリア							
	重症急性呼吸器症候群 *1							
	鳥インフルエンザ(H5N1)							
三類	コレラ							2
	細菌性赤痢	1	1		1	34	1	102
	腸管出血性大腸菌感染症	1	6	5	13	54	93	801
	腸チフス					5	1	13
	パラチフス			1		5		10
四類	E型肝炎					9	2	68
	ウエストナイル熱							
	A型肝炎		3	3	2	22	3	104
	エキノкокクス症							5
	黄熱							
	オウム病							4
	オムスク出血熱							
	回帰熱							
	キャサヌル森林病							
	Q熱							
	狂犬病							
	コクシジオイデス症							1
	サル痘							
	腎症候性出血熱							
	西部ウマ脳炎							
	ダニ媒介脳炎							
	炭疽							
	チクングニア熱							
	つつが虫病			1		2	8	165
	デング熱		1	1		16		58
	東部ウマ脳炎							
	鳥インフルエンザ(H5N1を除く)							
	ニパウイルス感染症							
	日本紅斑熱						1	30
	日本脳炎							
	ハンタウイルス肺症候群							
	Bウイルス病							
	鼻疽							
	ブルセラ症							
	ベネズエラウマ脳炎							
	ヘンドラウイルス感染症							
	発しんチフス							
	ボツリヌス症							2
	マラリア				1	9	1	31
	野兔病							
	ライム病							2
リッサウイルス感染症								
リフトバレー熱								
類鼻疽								
レジオネラ症		1		3	26	26	346	
レプトスピラ症					3		5	
ロッキー山紅斑熱								

分類	対象疾患	東京都(保健所受理週)					全国(診断週)	
		22週	23週	24週	25週	年累計	25週	年累計
五類 (全数届出)	アメーバ赤痢	5	2	2	1	80	4	377
	ウイルス性肝炎 (A型・E型を除く)		1	1	2	23	6	106
	急性脳炎 *2					16	2	213
	クリプトスポリジウム症					2		6
	クロイツフェルト・ヤコブ病					6	4	86
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症		2			10	2	134
	後天性免疫不全症候群	11	7	12	11	205	11	626
	ジアルジア症	1				7	1	27
	髄膜炎菌性髄膜炎							6
	先天性風しん症候群							
	梅毒	10	4	4	5	138	10	390
	破傷風		2			3	2	44
	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症							
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症				1	6		40
	風しん	3	7	8	11	59	45	453
	麻しん	1	1	2	5	28	13	164
2012/6/27集計								

*1 病原体がコロナウイルス属SARSコロナウイルスであるものに限る。

*2 ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介性脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く。

(全数把握対象疾患のコメント)

〈二類感染症〉

結核 88件 肺結核 40件、その他の結核 18件、無症状病原体保有者 28件、疑似症 2件、年齢は10歳未満 7件(うち5歳未満 5件)、10代 1件、20代 11件、30代 15件、40代 12件、50代 9件、60代 6件、70代 13件、80代 12件、90歳以上 2件、推定感染地は国内 82件、フィリピン 2件、インドネシア 1件、国内または中国 1件、渡航先不明 2件であった。

〈三類感染症〉

細菌性赤痢 1件 患者、年齢は30代、菌種はソルネ、推定感染地は国内、推定感染経路はその他(不明)であった。

腸管出血性大腸菌感染症 13件 患者 8件、無症状病原体保有者 5件、血清型・毒素型はO157 VT1・VT2 7件、O157 VT2 4件、O26 VT1 1件、O26 VT(型不明) 1件、年齢は5歳未満 1件、10代 6件、20代 1件、40代 4件、60代 1件、推定感染地は国内 12件(東京都 6件、北海道 1件、不明 5件)、アメリカ 1件、推定感染経路は経口感染 3件、接触感染 1件、その他(不明) 9件であった。なお、上記のうち、5歳未満の1件、10代の1件、40代の1件は同一家族内での感染であり、10代の1件、40代の1件は別の同一家族内での感染であった。

〈四類感染症〉

A型肝炎 2件 患者2件、年齢は20代 1件、40代 1件、推定感染地は国内 2件、推定感染経路は経口感染 1件、その他(不明) 1件であった。

マラリア 1件 患者、年齢は20代、病型は熱帯熱、推定感染地はタンザニアであった。

レジオネラ症 3件 肺炎型 3件、年齢は60代 2件、70代 1件、推定感染地は国内 3件、推定感染経路はその他(不明) 3件であった。

〈五類感染症〉

アメーバ赤痢 1件 腸管外、年齢は50代、推定感染地は国内、推定感染経路はその他(不明)であった。

ウイルス性肝炎 2件 B型 1件、C型 1件、年齢は20代 1件、50代 1件、推定感染地は国内 2件、推定感染経路はB型が性的接触(異性間)、C型がその他(不明)であった。

後天性免疫不全症候群 11件 AIDS 3件、無症候キャリア及びその他 8件、AIDS患者の年齢は40代 3件、無症候キャリア及びその他の年齢は20代 2件、30代 3件、40代 2件、60代 1件、推定感染地は国内 10件、不明 1件、推定感染経路は性的接触 9件(同性間 8件、異性間 1件)、不明 2件であった。

梅毒 5件 早期顕症梅毒Ⅱ期 2件、無症候梅毒 3件、年齢は20代 1件、40代 2件、50代 1件、70代 1件、推定感染地は国内 5件、推定感染経路は性的接触 4件(同性間 1件、性別不明 3件)、その他(不明) 1件であった。

バンコマイシン耐性腸球菌感染症 1件 年齢は90歳以上、推定感染地は国内、推定感染経路はその他(不明)であった。

風しん 11件 検査診断例 8件、臨床診断例 3件、年齢は10代 2件、20代 3件、30代 3件、40代 3件、推定感染地は国内 11件、推定感染経路は飛沫・飛沫核感染 2件、接触感染 1件、その他(不明) 8件、風しん含有ワクチン接種歴は接種なし 4件、不明 7件であった。

麻しん 5件 臨床診断例 3件、検査診断例 1件、修飾麻しん 1件、年齢は20代 2件、30代 2件、60代 1件、推定感染地は国内 5件、推定感染経路は飛沫・飛沫核感染 1件、その他(不明) 4件、麻しん含有ワクチン接種歴は1回接種 1件、不明 4件であった。

※ 第22週で報告のあった〔五類〕麻しん 1件、及び第24週で報告のあった〔五類〕麻しん 1件は削除された。

※ 第22週該当分として、〔五類〕風しん 1件の追加報告があった。

定点把握対象疾患 報告数 2012年25週

定点種別	対象疾患	2012年					報告 医療 機関数	定点 医療 機関数
		22週	23週	24週	25週	定点当たり		
小児科	RSウイルス感染症	37	22	13	17	0.07	261	264
	咽頭結膜熱	158	157	191	166	0.64		
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	872	803	894	743	2.85		
	感染性胃腸炎	2,537	2,323	2,284	2,102	8.05		
	水痘	280	353	231	337	1.29		
	手足口病	81	90	145	249	0.95		
	伝染性紅斑	43	40	46	53	0.20		
	突発性発しん	213	224	204	206	0.79		
	百日咳	9	4	3	6	0.02		
	ヘルパンギーナ	69	100	208	379	1.45		
	流行性耳下腺炎	75	71	54	80	0.31		
	川崎病(注1)	6	2	5	8	0.03		
	不明発しん症(注1)	20	21	36	53	0.20		
インフルエンザ	インフルエンザ(注2)	42	38	10	5	0.01	416	419
眼科	急性出血性結膜炎						38	39
	流行性角結膜炎	39	30	34	22	0.58		
基幹	細菌性髄膜炎(注3)	1	1				25	25
	無菌性髄膜炎	2	1	2				
	マイコプラズマ肺炎	15	9	19	19	0.76		
	クラミジア肺炎(オウム病を除く)	1						
	インフルエンザ入院(注4)	1	2					
2012/6/27集計								

(注1) 不明発しん症、川崎病 は東京都が独自に指定する疾患である。
 (注2) 鳥インフルエンザを除く。
 (注3) 髄膜炎菌性髄膜炎を除く。
 (注4) 2011年36週より開始

(今週の注目される定点把握対象疾患)

- ・手足口病、ヘルパンギーナの定点当り報告数は増加した。

(小児科・内科定点医療機関からのコメント)

台東区

- ・手足口病 同じ保育園で8名発生。
- ・手足口病、ヘルパンギーナが出始めました。

世田谷区

- ・アデノウイルス感染症 2名。
- ・アデノウイルス迅速キット陽性 3名。マイコプラズマ肺炎 1名(胸部X線、採血)にて診断。
- ・流行性耳下腺炎 1名、IgM(+)

杉並区

- ・麻疹疑い 1名(30代)。

豊島区

- ・感染性胃腸炎5名中、ロタウイルス 1名(9ヶ月児)。

荒川区

- ・感染性胃腸炎(24週～25週分) 病原性O1、O18、O157、カンピロバクター 各1名。

板橋区

- ・感染性胃腸炎12名中、病原大腸菌O126、O145 各1名。

八王子市

- ・アデノウイルス感染症 8名(9ヶ月児、10ヶ月児、2歳児、3歳児 各1名。1歳児 4名)。

南多摩

- ・感染性胃腸炎の患者が多かった。
- ・感染性胃腸炎 依然多い。
- ・A群溶血性レンサ球菌咽頭炎増加。

多摩小平

- ・感染性胃腸炎4名中、病原性大腸菌1名。
- ・感染性胃腸炎15名中、ロタウイルス、アデノウイルス 各1名。病原性大腸菌 10名、サルモネラ 2名。
- ・感染性胃腸炎がちらほら見られる。水痘も溶連菌感染症も少ないが出ている。
- ・A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、水痘が流行している。感染性胃腸炎は少なめ。

定点把握対象疾患 報告数【年齢階級別】 2012年25週

定点種別	小児科									
	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	ヘルパンギーナ
～6か月	2	1		22	2	1				1
～1歳	5	11	2	168	23	10	1	86		35
1歳	4	50	21	286	32	69		102		110
2歳	2	21	39	232	51	60	7	14	1	81
3歳	1	34	70	217	61	34	5	3		59
4歳	1	20	109	245	64	31	7	1		46
5歳	1	16	114	171	42	18	7			21
6歳		5	98	158	26	8	5			7
7歳		2	69	102	15	4	6			7
8歳		1	61	84	10	4	5			4
9歳			37	68	4	3	4			2
10～14歳	1	3	93	157	6	3	6		1	2
15～19歳			2	35						
20～29歳		2	28	157	1	4			4	4
30～39歳										
40～49歳										
50～59歳										
60～69歳										
70～79歳										
80歳以上										
合計	17	166	743	2,102	337	249	53	206	6	379
先週比	4	-25	-151	-182	106	104	7	2	3	171

注：小児科定点把握対象疾患の「20～29歳」は「20歳以上」と読み替える。
眼科定点把握対象疾患のうち、「70～79歳」は「70歳以上」と読み替える。

定点種別	小児科			インフルエンザ	眼科	
	流行性耳下腺炎	川崎病	不明発しん症	インフルエンザ	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎
～6か月			2			
～1歳	1	3	5			
1歳	7	1	13			1
2歳	4		8			4
3歳	10		7			
4歳	14	2	3	1		1
5歳	15	1	4			3
6歳	10		6			
7歳	6	1				
8歳	2					
9歳	5					
10～14歳	5		4	1		
15～19歳				1		
20～29歳	1		1			3
30～39歳				1		4
40～49歳				1		4
50～59歳						1
60～69歳						
70～79歳						1
80歳以上						
合計	80	8	53	5		22
先週比	26	3	17	-5		-12

注：小児科定点把握対象疾患の「20～29歳」は「20歳以上」と読み替える。
眼科定点把握対象疾患のうち、「70～79歳」は「70歳以上」と読み替える。

全数把握対象疾患 (風しん、麻しん)報告数

【年齢階級別】 2012年25週

	風しん	麻しん
0歳		
1歳		
2歳		
3歳		
4歳		
5歳		
6歳		
7歳		
8歳		
9歳		
10～14歳		
15～19歳	2	
20～29歳	3	2
30～39歳	3	2
40～49歳	3	
50～59歳		
60～69歳		1
70～79歳		
80歳以上		
合計	11	5

定点把握対象疾患 報告数【保健所別】 2012年25週

定点種別	小児科									
	RSウイルス 感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性 レンサ球菌 咽頭炎	感染性 胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性 紅斑	突発性 発しん	百日咳	ヘルパン ギーナ
千代田			1	10	2	1	1	1		
中央区				20			1	2		14
みなと	2	11	7	27	1	7	1	4		19
新宿区	1	1	31	23	6	3	1	4		4
文京		2	6	7	7	1		2		
台東		3	12	33	3	20		1		1
墨田区		1	15	12	5	1		1		1
江東区		7	23	148	9	11	2	13		21
品川区		4	19	71	4	3	1	6		9
目黒区			2	23			2	1		
大田区	2	45	45	171	25	5		9	3	24
世田谷		10	74	127	16	68	16	8		13
渋谷区			1	30		2		1		2
中野区			14	39	6	3	1	6		6
杉並			17	91	5	1		3		4
池袋		1	2	8	1	1				1
北区			10	33	16	3		5		10
荒川区		6	20	18	3	11	1	9		12
板橋区			3	33	8	5	1	11	1	10
練馬区	1	7	50	82	17	5		14	1	59
足立	1	4	17	120	12	1		15		15
葛飾区		2	14	86	7	5	1	10		10
江戸川	1	12	47	128	13	21	2	11		24
八王子市	6	22	62	133	23	11		7		5
町田市		3	49	115	28	19	6	5		16
西多摩		1	9	44	8	1		2		2
南多摩		3	31	99	22	6		4		8
多摩立川		2	33	78	11	18	3	7		15
多摩府中		4	68	192	40	6	12	22		21
多摩小平	3	15	60	100	38	10	1	22	1	53
島しょ			1	1	1					
東京都合計	17	166	743	2,102	337	249	53	206	6	379

全数把握対象疾患
(風しん、麻しん)報告数

【保健所別】 2012年25週

定点種別	小児科			インフルエンザ	眼科	
	流行性 耳下腺炎	川崎病	不明 発しん症	インフル エンザ	急性出血 性結膜炎	流行性 角結膜炎
千代田						
中央区	1					2
みなと						
新宿区			1	1		1
文京						1
台東	4					
墨田区	1		1			
江東区	1	1	3	3		1
品川区						
目黒区	1					1
大田区	6		1			1
世田谷	3		8	1		
渋谷区						3
中野区	1		1			1
杉並	2	1	1			
池袋	1					2
北区	3	1				1
荒川区	3		2			
板橋区	1		2			
練馬区		1				
足立	4		1			
葛飾区	2					
江戸川	3		4			
八王子市	24	1	15			1
町田市	2		4			
西多摩						
南多摩	3	1	1			
多摩立川	5		2			
多摩府中	6	2	4			1
多摩小平	3		2			6
島しょ						

東京都合計	80	8	53	5		22
-------	----	---	----	---	--	----

	風しん	麻しん
千代田		
中央区		
みなと		
新宿区		
文京		
台東		
墨田区		
江東区		
品川区	1	2
目黒区		
大田区		
世田谷		
渋谷区		
中野区	1	1
杉並	2	1
池袋		
北区		
荒川区		
板橋区	1	
練馬区		
足立	1	
葛飾区		
江戸川	1	
八王子市		
町田市		
西多摩		
南多摩		
多摩立川		
多摩府中	1	
多摩小平	3	1
島しょ		

東京都合計	11	5
-------	----	---

定点把握対象疾患 報告数【保健所別・定点当たり】 2012年25週

定点種別	小児科									
	RS ウイルス 感染症	咽頭 結膜熱	A群溶血性 レンサ球菌 咽頭炎	感染性 胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性 紅斑	突発性 発しん	百日咳	ヘルパン ギーナ
千代田			0.33	3.33	0.67	0.33	0.33	0.33		
中央区				6.67			0.33	0.67		4.67
みなと	0.33	1.83	1.17	4.50	0.17	1.17	0.17	0.67		3.17
新宿区	0.13	0.13	3.88	2.88	0.75	0.38	0.13	0.50		0.50
文京		0.50	1.50	1.75	1.75	0.25		0.50		
台東		0.75	3.00	8.25	0.75	5.00		0.25		0.25
墨田区		0.20	3.00	2.40	1.00	0.20		0.20		0.20
江東区		0.78	2.56	16.44	1.00	1.22	0.22	1.44		2.33
品川区		0.50	2.38	8.88	0.50	0.38	0.13	0.75		1.13
目黒区			0.50	5.75			0.50	0.25		
大田区	0.15	3.46	3.46	13.15	1.92	0.38		0.69	0.23	1.85
世田谷		0.67	4.93	8.47	1.07	4.53	1.07	0.53		0.87
渋谷区			0.25	7.50		0.50		0.25		0.50
中野区			2.00	5.57	0.86	0.43	0.14	0.86		0.86
杉並			1.70	9.10	0.50	0.10		0.30		0.40
池袋		0.25	0.50	2.00	0.25	0.25				0.25
北区			1.43	4.71	2.29	0.43		0.71		1.43
荒川区		1.50	5.00	4.50	0.75	2.75	0.25	2.25		3.00
板橋区			0.30	3.30	0.80	0.50	0.10	1.10	0.10	1.00
練馬区	0.08	0.54	3.85	6.31	1.31	0.38		1.08	0.08	4.54
足立	0.08	0.31	1.31	9.23	0.92	0.08		1.15		1.15
葛飾区		0.25	1.75	10.75	0.88	0.63	0.13	1.25		1.25
江戸川	0.08	1.00	3.92	10.67	1.08	1.75	0.17	0.92		2.00
八王子市	0.55	2.00	5.64	12.09	2.09	1.00		0.64		0.45
町田市		0.38	6.13	14.38	3.50	2.38	0.75	0.63		2.00
西多摩		0.13	1.13	5.50	1.00	0.13		0.25		0.25
南多摩		0.33	3.44	11.00	2.44	0.67		0.44		0.89
多摩立川		0.14	2.36	5.57	0.79	1.29	0.21	0.50		1.07
多摩府中		0.19	3.24	9.14	1.90	0.29	0.57	1.05		1.00
多摩小平	0.20	1.00	4.00	6.67	2.53	0.67	0.07	1.47	0.07	3.53
島しょ			1.00	1.00	1.00					

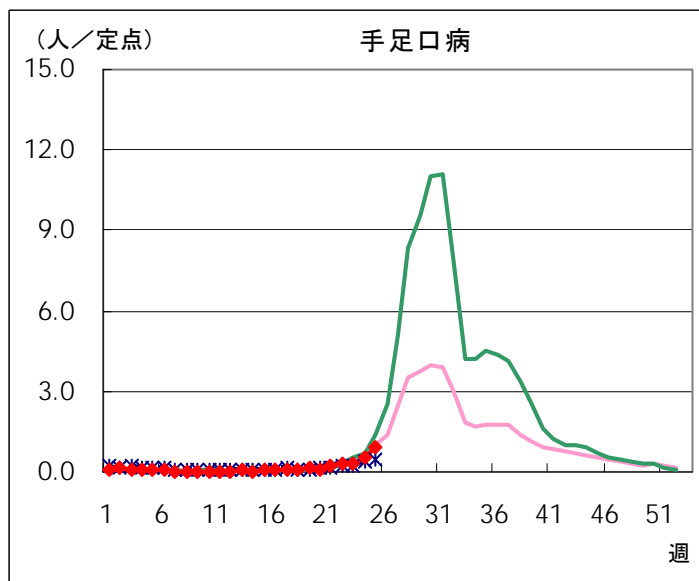
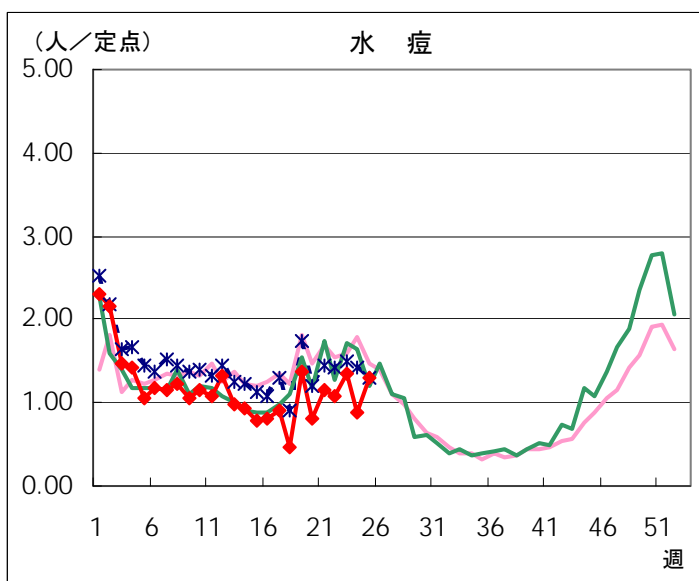
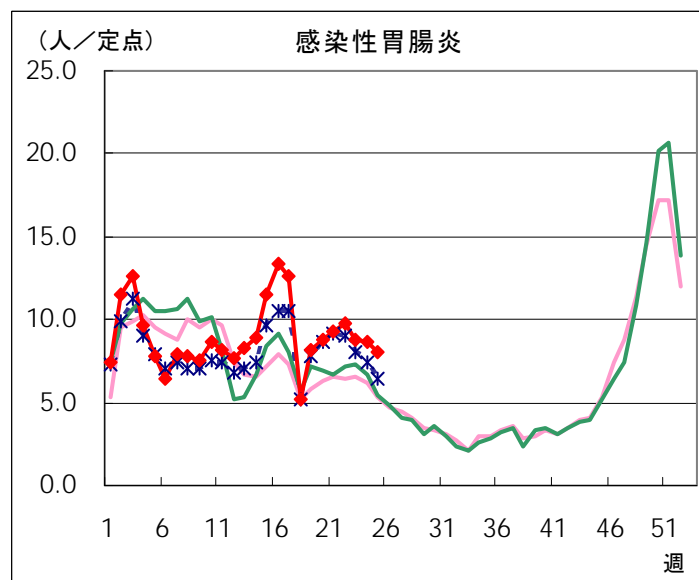
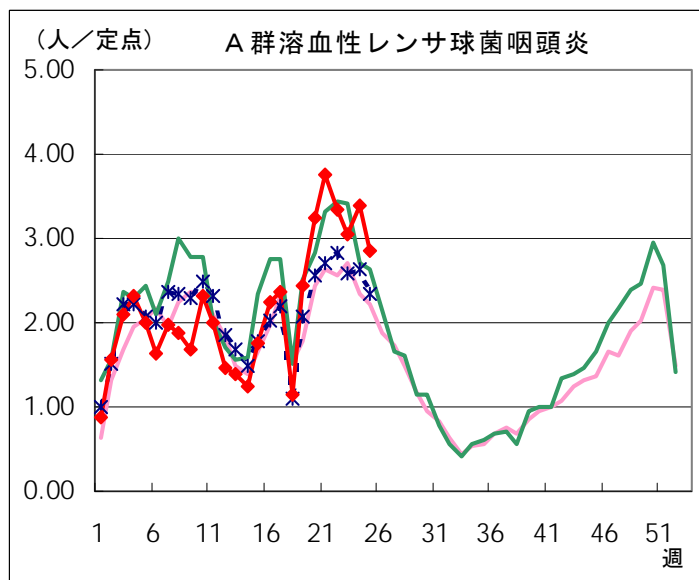
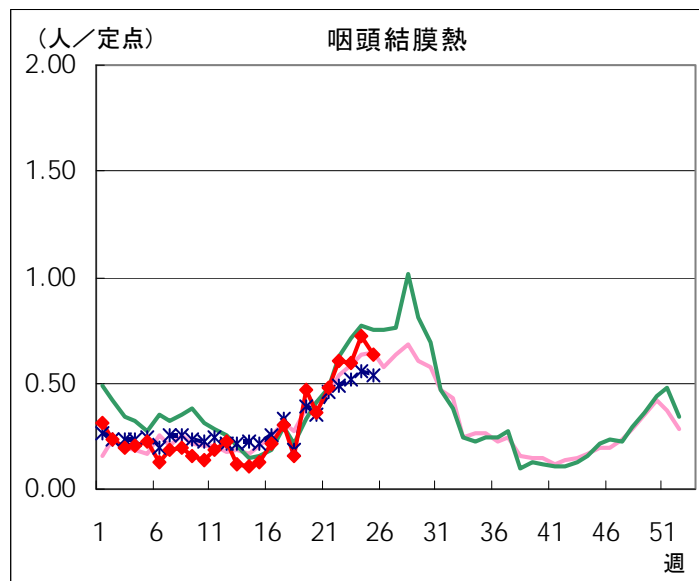
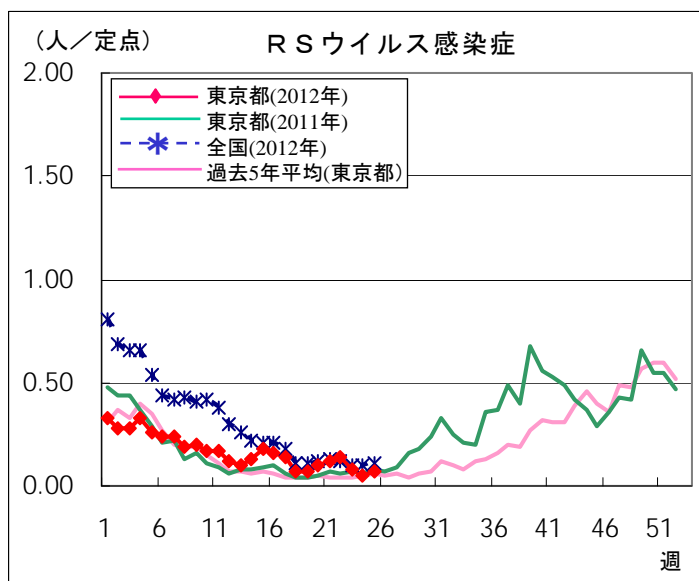
東京都	0.07	0.64	2.85	8.05	1.29	0.95	0.20	0.79	0.02	1.45
-----	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------

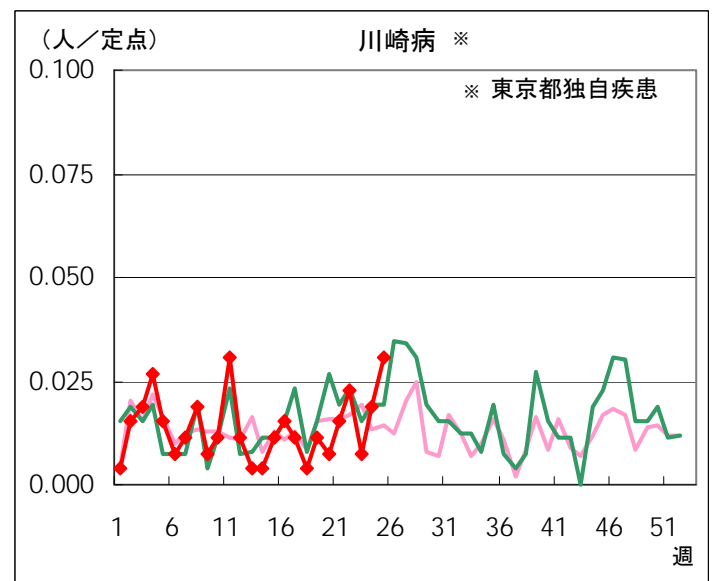
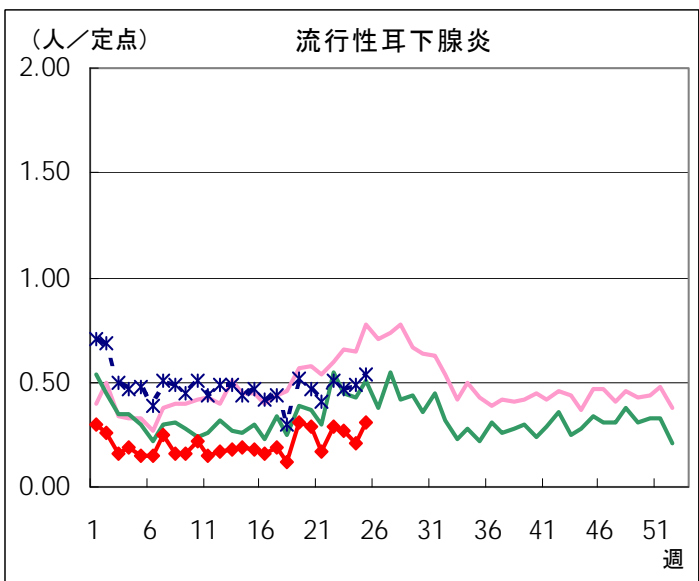
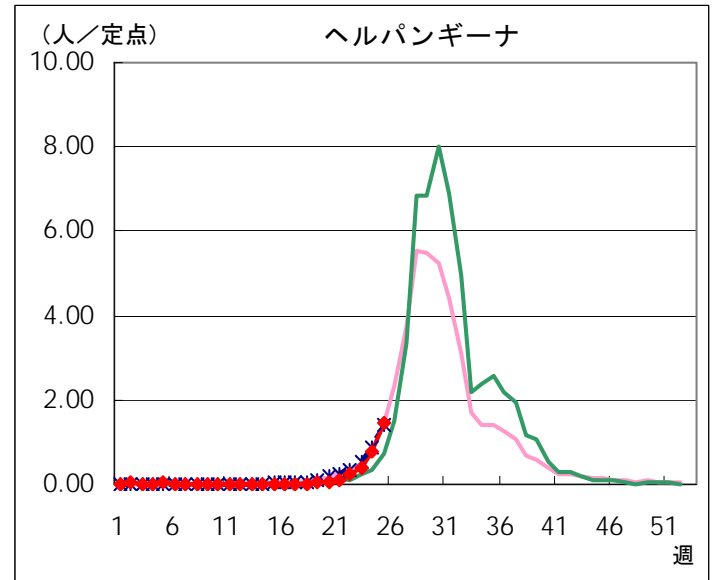
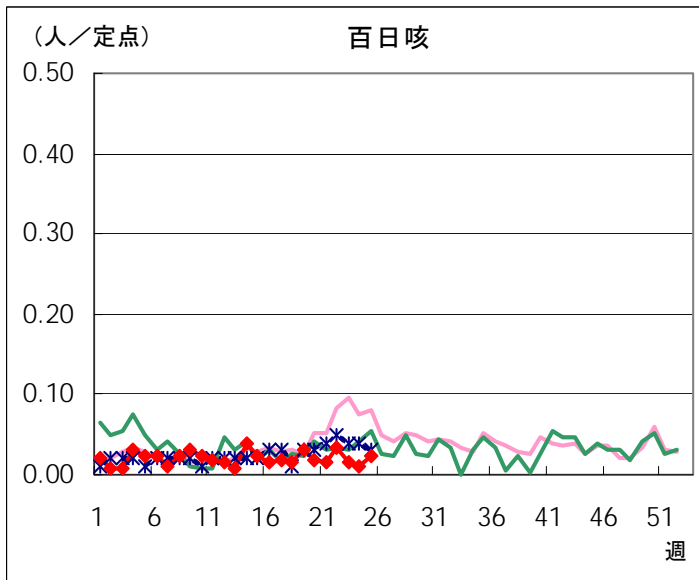
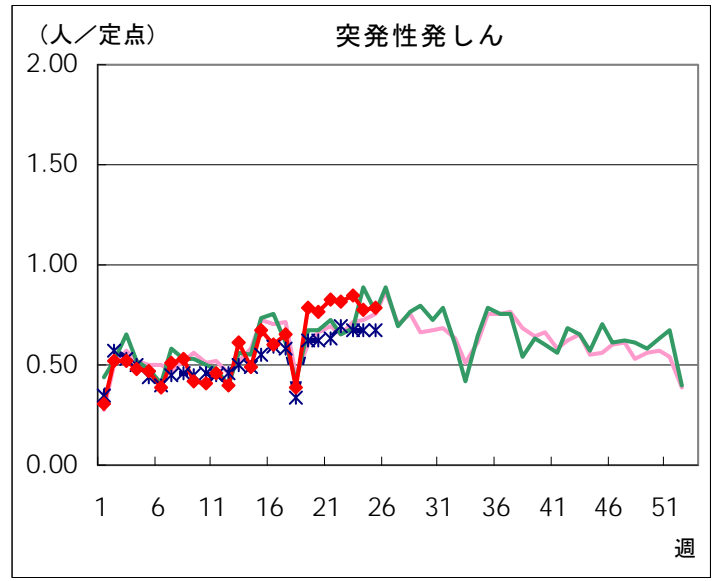
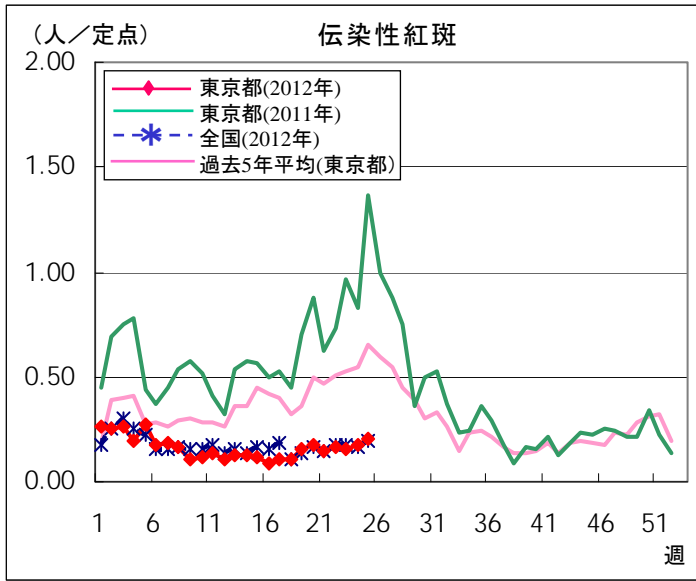
定点種別	小児科			インフルエンザ	眼科	
	流行性 耳下腺炎	川崎病	不明 発しん症	インフル エンザ	急性出血 性結膜炎	流行性 角結膜炎
千代田						
中央区	0.33					2.00
みなと						
新宿区			0.13	0.08		1.00
文京						1.00
台東	1.00					
墨田区	0.20		0.20			
江東区	0.11	0.11	0.33	0.21		1.00
品川区						
目黒区	0.25					1.00
大田区	0.46		0.08			0.50
世田谷	0.20		0.53	0.04		
渋谷区						3.00
中野区	0.14		0.14			1.00
杉並	0.20	0.10	0.10			
池袋	0.25					2.00
北区	0.43	0.14				1.00
荒川区	0.75		0.50			
板橋区	0.10		0.20			
練馬区		0.08				
足立	0.31		0.08			
葛飾区	0.25					
江戸川	0.25		0.33			
八王子市	2.18	0.09	1.36			0.50
町田市	0.25		0.50			
西多摩						
南多摩	0.33	0.11	0.11			
多摩立川	0.36		0.14			
多摩府中	0.29	0.10	0.19			0.33
多摩小平	0.20		0.13			3.00
島しょ						

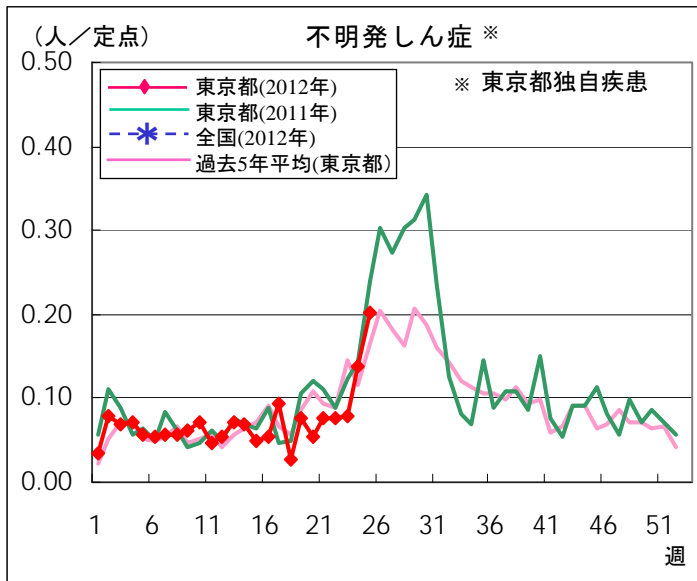
東京都	0.31	0.03	0.20	0.01		0.58
-----	------	------	------	------	--	------

定点把握対象疾患 報告数【週別発生状況】 2012年25週現在

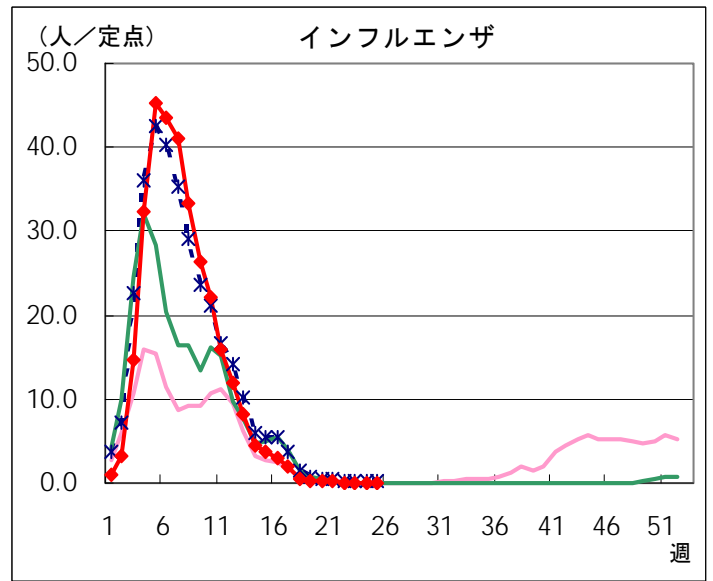
◆ 小児科定点



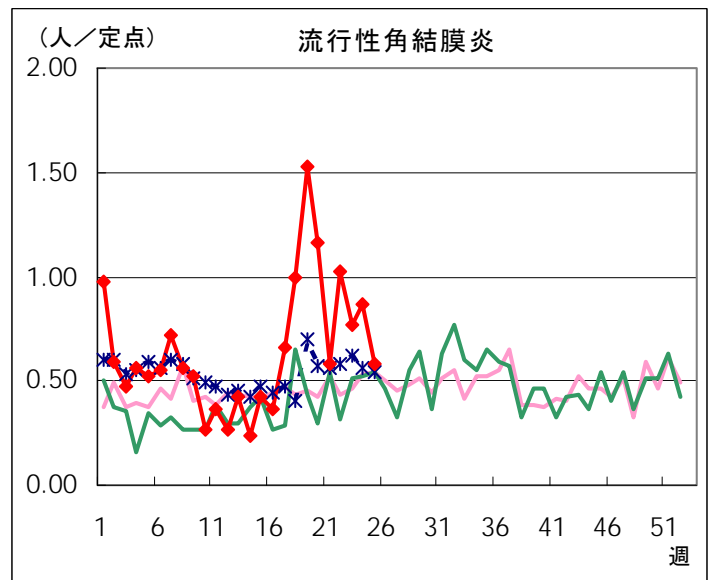
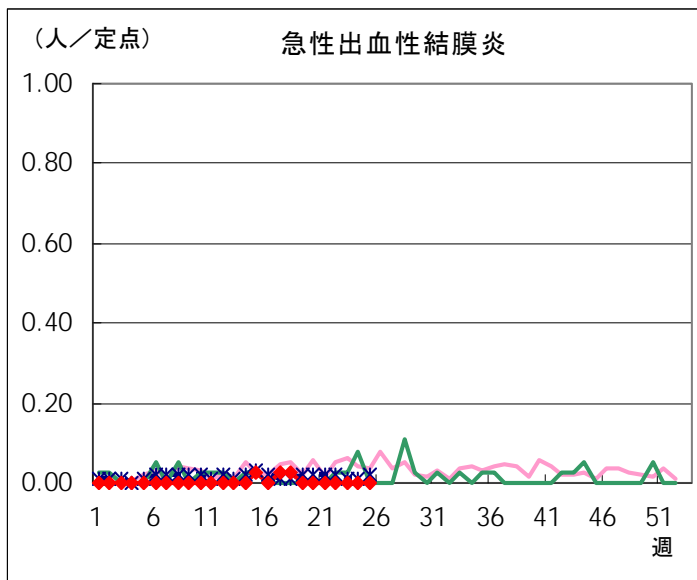




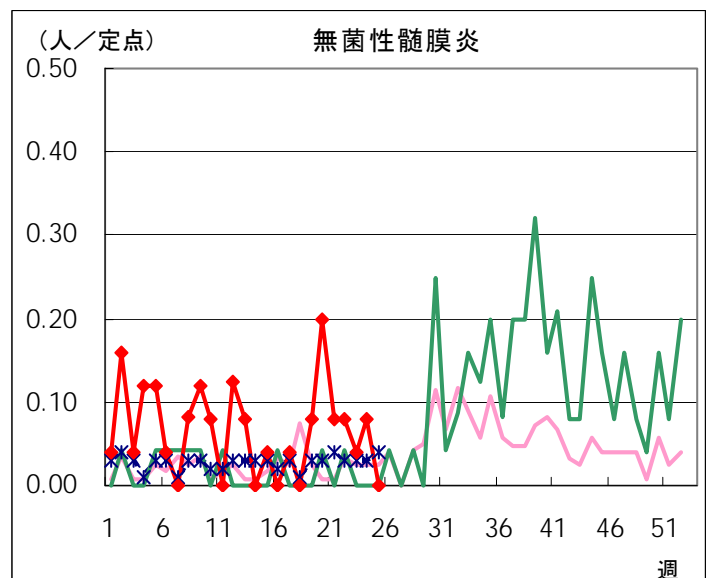
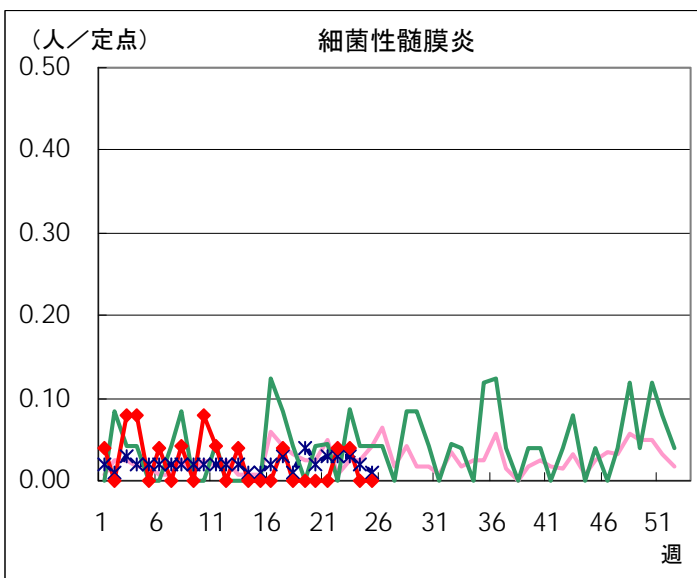
◆ インフルエンザ定点

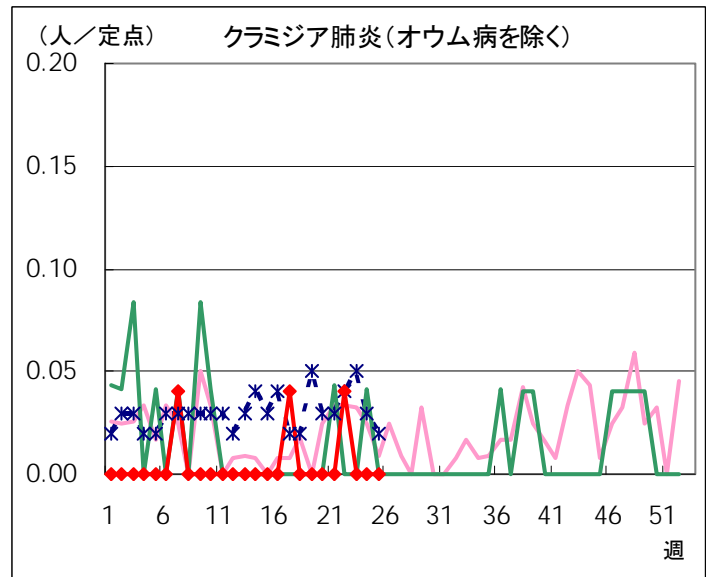
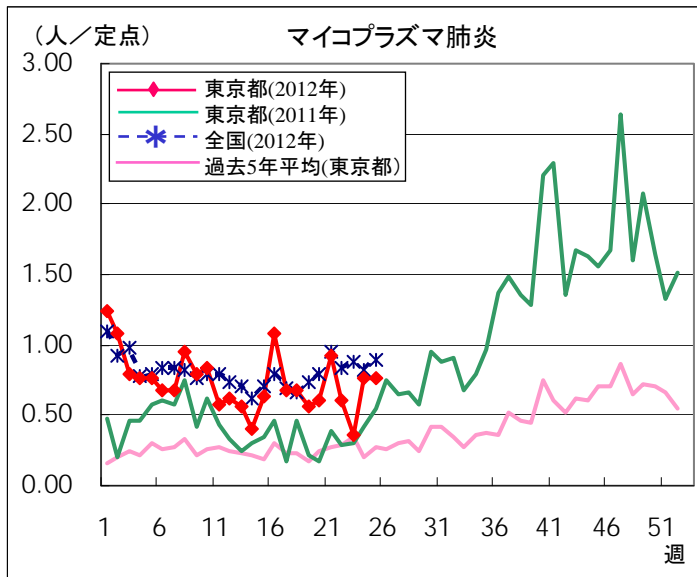


◆ 眼科定点

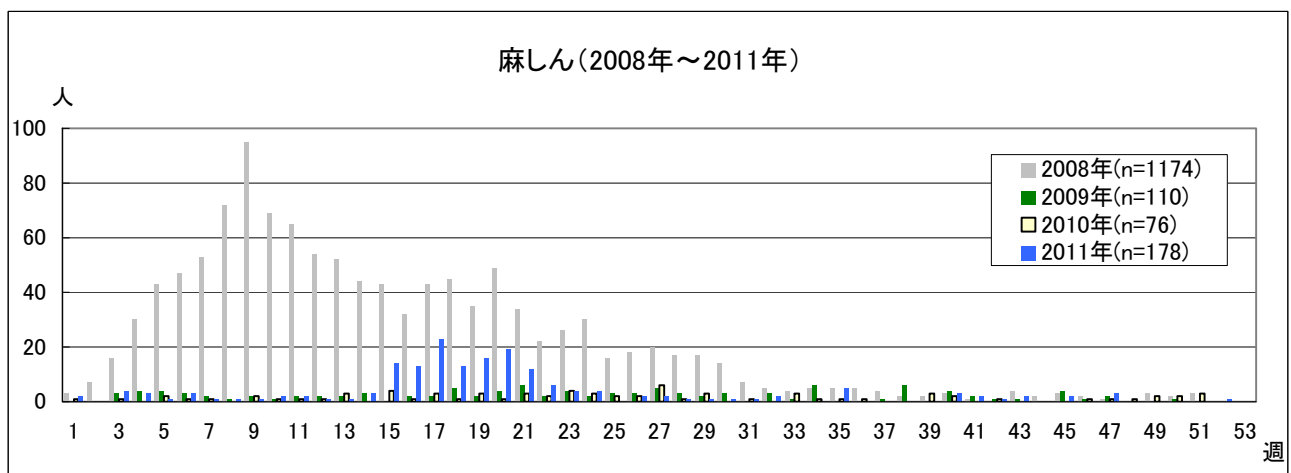
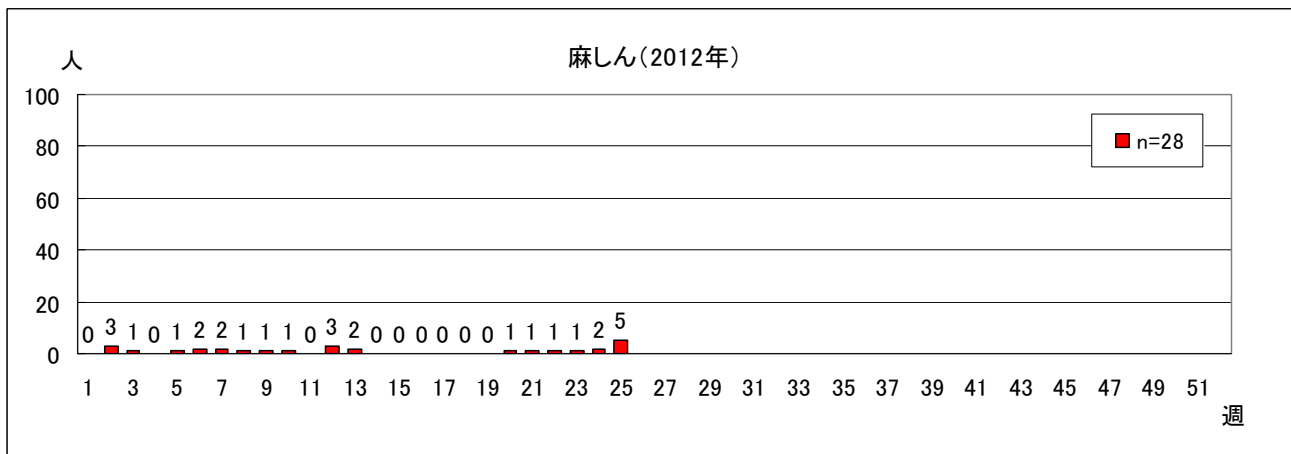


◆ 基幹定点





全数把握対象疾患 報告数【週別保健所受理状況】 2012年25週現在



定点(病原体)医療機関から搬入された検体の検査情報

◇病原体検出状況(インフルエンザウイルスを除く)

検体採取日	臨床診断名	患者年齢	検査試料	検出病原体	検査法
6/8	クループ性気管支炎	4M	鼻汁	パラインフルエンザウイルス 2型	遺伝子
6/12	感染性胃腸炎	6M	糞便	アデノウイルス	
6/11	けいれん重積	10M	髄液	ヒトヘルペスウイルス 6型	
6/11	突発性発しん	11M	咽頭拭い液	ヒトヘルペスウイルス 6型	
6/13	急性咽頭結膜熱	1	咽頭拭い液	パラインフルエンザウイルス 3型	
6/7	突発性発しん	1	咽頭拭い液	ヒトヘルペスウイルス 6型	
6/11	突発性発しん	2	咽頭拭い液	ヒトヘルペスウイルス 6型	
6/9	急性咽頭結膜熱	3	咽頭拭い液	ライノウイルス	
6/14	ヘルパンギーナ	9	咽頭拭い液	EBウイルス	
6/5	上気道炎	21	咽頭拭い液	ライノウイルス	

◇遺伝子検査法によるインフルエンザウイルスの亜型別検出件数

検出件数	AH1pdm09*型	AH1型	AH3型	B型
24週				1
2011-2012年 シーズン累計**	1		219	137

* 2011年4月1日から新型インフルエンザ(AH1N1pdm)が季節性インフルエンザに移行されたため、表記を AH1pdm09 とします。

** 2011-2012シーズンの開始は第36週(2011年9月5日～)

病原体検査情報【検出病原体別・週別】

検出病原体		2012年							
		17週	18週	19週	20週	21週	22週	23週	24週
ウイルス	アデノウイルス	2	1	1	2	3	5	2	1
	ライノウイルス	4		1	3	5	1	6	2
	ポリオウイルス								
	コクサッキーウイルスA群								
	コクサッキーウイルスB群								
	エコーウイルス								
	エンテロウイルス71								
	その他のエンテロウイルス	1		1		2	5	1	
	単純ヘルペスウイルス			1					
	水痘・帯状疱疹ウイルス								
	ヘルペスウイルス6/7	6	2	4	1	8	3	6	4
	EBウイルス			2	1	1	1	1	1
	サイトメガロウイルス			1	2			1	
	ムンプスウイルス		1	1	1				
	麻疹ウイルス								
	風疹ウイルス						1		
	パルボウイルスB19								
	RSウイルス					1		2	
	ノロウイルス	1		4	3				
	ロタウイルス	2	1			1	1		
インフルエンザウイルスAH1									
インフルエンザウイルスAH3	1		1						
インフルエンザウイルスB	4		5					1	
インフルエンザウイルスAH1pdm09									
デングウイルス(抗体を含む)									
その他のウイルス	3	1	4	5	3	1	1	2	
細菌	カンピロバクター								
	サルモネラ								
	腸管出血性大腸菌								
	その他の腸管系病原菌								
	溶血性レンサ球菌								
	百日咳								
	マイコプラズマ								
	その他の細菌								
その他の病原体									

病原体検査情報【検出病原体別・臨床診断名別】

2012年17週～2012年24週

臨床診断名 検出病原体		インフルエンザ	上気道炎	下気道炎	感染性胃腸炎	無菌性髄膜炎	咽頭結膜熱	A群溶連菌咽頭炎	流行性角結膜炎	ヘルパンギーナ	手足口病	伝染性紅斑	不明発しん症	流行性耳下腺炎	水痘	麻疹	風しん	その他
搬入検体数		15	22	37	36	30	5	5	2				21	5	1	2	1	83
ウイルス	アデノウイルス	1	3	2	2		1						3					5
	ライノウイルス	3	3	10			2						1					3
	ポリオウイルス																	
	コクサッキーウイルスA群																	
	コクサッキーウイルスB群																	
	エコーウイルス																	
	エンテロウイルス71																	
	その他のエンテロウイルス			1					1				1					7
	単純ヘルペスウイルス					1												
	水痘・帯状疱疹しんウイルス																	
	ヘルペスウイルス6/7		1	1									9			1		22
	EBウイルス								1				3	2				1
	サイトメガロウイルス								1				1	1	1			
	ムンプスウイルス					2								1				
	麻疹しんウイルス																	
	風しんウイルス																	1
	パルボウイルスB19																	
	RSウイルス			3														
	ノロウイルス				8													
	ロタウイルス				4													
インフルエンザウイルスAH1																		
インフルエンザウイルスAH3	2																	
インフルエンザウイルスB	9											1						
インフルエンザウイルスAH1pdm09																		
デングウイルス(抗体を含む)																		
その他のウイルス		2	11	4		2												
細菌	カンピロバクター																	
	サルモネラ																	
	腸管出血性大腸菌																	
	その他の腸管系病原菌																	
	溶血性レンサ球菌																	
	百日咳																	
	マイコプラズマ																	
	その他の細菌																	
その他の病原体																		

<感染症豆知識>

ヘルパンギーナ

ヘルパンギーナは、主に小児を中心に毎年夏季に流行を起こす急性のウイルス感染症で、発熱や口腔粘膜の水疱性発疹を特徴とする。都内定点医療機関からの報告によると、患者の大多数は未就学児で、中でも2歳以下が約半数を占める。原因は主にエンテロウイルスでコクサッキーウイルスA群（2、4、5、6、10型など）が多いが、B群やエコーウイルスなども原因となるが、病因となるウイルスやその血清型が多いことから、主となるウイルスが入れ替わり、毎年一定規模の流行を起こすと考えられている。潜伏期は通常2～4日とされ、突然の発熱に続く咽頭発赤や、軟口蓋から口蓋弓にかけての紅暈に囲まれた小水疱（後に破れて浅い潰瘍となる）が主な症状であるが、2～4日間程度で解熱し粘膜疹も消失する。予後良好であるが、まれに無菌性髄膜炎や急性心筋炎を合併することがある。特異的な治療法はなく、対症療法が中心である。感染経路は飛まつ感染と糞口感染とされ、回復後も2～4週間にわたり便にウイルスが排泄される。このため、咳やくしゃみによる飛まつを防ぎ手洗いの徹底を指導することが大切である。手足口病はヘルパンギーナ同様、エンテロウイルスを原因とするが、両疾患は発熱、手足の発疹、口腔粘膜の水疱性発疹の有無により鑑別診断されるという。しかし、昨年は発熱、咽頭の発赤で始まり当初ヘルパンギーナと診断された後に、手足口病と判明した事例も見られた。また、近年アジア諸国ではEV71によるヘルパンギーナや手足口病も報告されている。このような事例では、無菌性髄膜炎などの中枢神経合併症が多く、まれに重症化もあるとされる。このように手足口病同様、従来とは異なる臨床像を示す場合もあるため、引き続き注意が必要と考えられる。

（文責 東京都福祉保健局健康安全部感染症対策課長 吉田道彦）